

柏原市立歴史資料館

平成30年度夏季企画展

市制60周年記念

2018
7/1 (日)

8/26 (日)

鍛冶の郷

大県と田辺

市民歴史大学 (定員100名)

●7月14日 (土) 13:30~15:00

野島 永 氏 (広島大学大学院 教授)

『弥生時代の鉄器生産』

●8月5日 (日) 13:30~15:00

村上 恭通 氏

(愛媛大学 東アジア古代鉄文化研究センター
センター長)

『古代国家成立前夜の鉄器生産』

文化財講演会 (定員70名)

●7月28日 (土) 13:00~16:00

山田 隆一 氏 (大阪府教育庁文化財保護課)

『大県遺跡とその周辺』

吉田 知史 氏 (交野市教育委員会社会教育課)

『もうひとつの鍛冶の郷

—交野市森遺跡の初期官営工房—』

●8月25日 (土) 13:00~16:00

坂 靖 氏 (奈良県教育委員会文化財保存課)

『奈良県の遺跡から見た
鉄器生産について』

北野 重 氏 (鍛冶研究会 会長)

『柏原鍛冶集落の変遷』

※各講演会の会場は当館3階研修室、
申込・参加費不要です。

入館無料 月曜休館 9:30~17:00

(入館は16:30まで)

大阪府柏原市高井田1598-1 電話 072-976-3430

JR 大和路線 高井田駅から徒歩約5分

近鉄大阪線 河内国分駅から徒歩約15分

鍛冶とは、鉄の純度を高め、熱した鉄を打ち叩いて鉄器を作る技術で、日本では古墳時代になって本格的な鍛冶が始まったといわれています。かつて柏原では、ほかに類を見ないほど鍛冶が盛んだったことをご存知でしょうか。柏原の大泉では6世紀後半に最盛期を迎え、7世紀には田辺にも鍛冶が広がるなど、当時の日本で最大規模の鉄器生産が行われていました。

展示では、大泉遺跡と田辺遺跡の資料を中心に、当時の鍛冶の様子を紹介します。また府内でも、鍛冶に関する重要な発見が相次いでいる森遺跡（交野市）の資料も展示します。

炎が立ち上る鍛冶炉のそばで
鉄を叩く音が鳴り響く…。
そんな熱い風景を
想像しながら
ご覧ください。

▲▼ 鉄滓（上）、羽口（下）-田辺遺跡
【写真撮影：阿南写真工房】

▲ 鉄滓、鉄器-大泉遺跡【写真提供：大阪府教育委員会】

▼ 砥石、鹿角-大泉遺跡【写真撮影：阿南写真工房】

主な展示資料

大泉遺跡-鉄滓・
羽口・砥石・鹿角・
土師器・須恵器・韓式系
土器、田辺遺跡-鉄滓・銅滓・
鑄型・炉壁・羽口・砥石、
平尾山古墳群-鉄滓【以上、当館】

大泉遺跡-鉄滓・羽口・土師器・須恵器・
鉄鏃・砥石【大阪府教育委員会】

森遺跡-鉄滓・羽口・土師器・須恵器・復元鍛冶炉、
清水谷古墳-鉄滓【交野市教育委員会】 ほか

柏原市立歴史資料館

9:30～17:00（入館は16:30まで）

入館無料

月曜休館（祝日は開館）

072-976-3430

大阪府柏原市高井田 1598-1

JR 大和路線「高井田駅」北へ5分

近鉄大阪線「河内国分駅」北へ15分

